

第2回摂津市行政経営戦略審議会 <議事録>

開催日時	令和8年2月6日(金)10時00分~12時15分
開催場所	摂津市役所 本館3階 301会議室
次第	1. 次期・摂津市行政経営戦略の基本構想構築に向けた市民意見の聴取結果について 2. 次期・摂津市行政経営戦略の基本構想(骨子案)について
出席者	榎谷会長、久副会長、大矢委員、柏原委員、川上委員、島内委員、辻委員、橋本委員、吉田委員、米田委員
欠席者	切東委員
事務局	市長公室：平井市長公室長、有場副理事兼秘書課長、古賀副理事兼政策推進課長 政策推進課：橋本課長代理、坂下主事、西岡主事 株式会社地域計画建築研究所大阪事務所：廣部氏

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局 (古賀副理事)	<p>定刻となりましたので、ただ今から第2回摂津市行政経営戦略審議会を開催します。公私ご多忙の中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は11名中10名のご出席で半数を超えているため、会議が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたり、榎谷会長から一言ご挨拶をいただき、また、その後の進行をお願いいたします。</p>
榎谷会長	<p>改めまして、おはようございます。連日気温の寒暖差がありますが、皆様お元気にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>第1回審議会が昨年9月4日の開催で、その後約5か月が経過しています。その間、市民意識調査や小・中学生アンケート、せつつの未来を考えるワールドカフェなどの取組が実施されました。それらを踏まえ、次期・行政経営戦略の基本構想を構築し、審議に移っていくということで、本日の会議を開催しております。</p> <p>円滑な運営に努めてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次第に従い進行いたします。次第1.次期・摂津市行政経営戦略の基本構想構築に向けた市民意見の聴取結果について、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局 (古賀副理事)	資料1-1,1-2,2,3に基づき、説明。
榎谷会長	ただ今、事務局からご説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問等はいかがでしょうか。

久副会長	<p>まずは、確認となりますが、先ほどワールドカフェの意見はAIで分類したとご説明がありました。小・中学生アンケートもAIで分類したのでしょうか。それも踏まえて、結果に対してもう少し考察がほしいと思いました。</p> <p>たしかに結論としてはご説明のとおりかもしれませんが、これをどう使って計画に反映するのかということについては、やはり考察がないといけないと思います。意見を聴取しているのであれば、その意見から何か気付いたことが、次の計画に活かせるのではないかと思います。ここが多かった、ここがこうだったという、表層的な報告しかなかったので、もう少し読み解き、ここから何が言えるのか、何を気付いたのか、それを次の計画にどう活かすのか、ということがほしいというのが1点です。</p> <p>それと市民意識調査について、満足度や期待度の結果を、例えば多変量解析や主成分分析を行うと、どのようなまとまりになるのかということが統計学的に処理できるかと思えます。さらにそこから出てきた、いわゆる要素、どういう方がどのように反応されているのかというような、回答者の分類も可能なはずです。例えば、住宅や道路などのハード面に反応されている方、教育や福祉などのソフト面に反応されている方が、きちんと統計学的に分析できると思えます。今後の展開に期待ということかもしれませんが、それらについて、事務局から見解をお願いします。</p>
事務局 (有場副理事)	<p>ご意見ありがとうございます。まず考察について、もっと深掘りしていくべきであろうということですが、それに関してはおっしゃるとおりでございます。</p> <p>今回、市民意識調査、小・中学生アンケート、ワールドカフェの中では、つながりということについてのご意見が比較的多かったということは、先ほど報告させていただいたとおりであり、私もワールドカフェに3回とも出席する中で、そのようなお声が非常に多かったということを実感いたしました。</p> <p>表層的というご指摘はおっしゃるとおりでございますが、今後、各分野の計画の総括を進めていく中で、これらの結果を分析考察し、各課と協議の上、次の計画に活かしていきたいと考えているところでございます。</p>
久副会長	<p>なぜそれを指摘したかということ、EBPM、Evidence-Based Policy Making、つまり、行政は証拠に基づき政策を作ることが求められていますが、まだまだ明確になっていない場合が多く、経験と勘だけでやっているということが多いかと思えます。しかし、せっかくこれだけのデータが得られているわけですから、それを証拠として活用し、こういう結果が出ているからこうするというようなストーリーがほしいと思います。もっと分析考察をしていただかないといけないと思います。そもそも行政職員にそういう能力をお持ちの方がどれだけいらっしゃるのか。先ほど申し上げたような主成分分析など、統計学的にきちんと処理できる能力をお持ちの方が、かなり心もとないのではないかと考えています。トレーニングの機会にもなると思いますので、しっかりと結果を分析していただきたいと思えます。</p>

	<p>さらにもう1つ申し上げると、ワールドカフェで安威川以南・以北の違いが出ているのではないかと思います。市民意識調査でも、居住地を分類した場合、同じような結果が出るのかどうか。もしかすると市民意見調査とワールドカフェの調査の結果が違ふとすれば、それはなぜ違ふのかというところが見えてくるかもしれないと思います。小・中学生アンケートも小・中学校ごとに分類すると以北・以南の違いが出てくるかもしれません。そのようなことを考察する際に考えていただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>
榎谷会長	<p>具体的なお指摘もありましたので、ぜひ取り組んでいただき、またご報告いただければと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>その他、ご意見等いかがでしょうか。</p>
吉田委員	<p>事前に資料をいただき、ありがとうございます。市民意識調査について、私には届かなかったため、改めてアンケートを昨日やってみました。その上で、何点かお聞きしたいことがあります。</p> <p>1つは、満足度というのは自分がどう感じているかということで回答ができるかと思いますが、期待度というのは、しっかりやってほしいなという期待なのか、今やっていることに対してあまり期待できないなと思うのか、どちらなのか悩みました。だから、回答者によっては、できていないからもっとやってほしいという意味で、期待しているという4点を付ける方もいらっしゃるかもしれないし、できていないから期待してもあまりやってくれないだろうと2点や1点を付けた方がいたかもしれない。期待度に対しての評価が少しわかりにくかったので、もう少し設問の仕方を考えた方がよかったのではないかと、私自身が悩んだので申し上げておきます。ちなみに私の場合は、29の項目中、平均すると満足度が2.66、期待度が3.00となりました。</p> <p>それから、今皆さんのお手元に配っていただいているものは、並行して協働のまちづくり推進委員会が進んでおり、1月20日に開催された委員会で配付された資料です。その資料で一番驚いたことは、乳幼児について、転入より転出が圧倒的に多いことです。これについて、どこかの機会でもたお聞きしたいなと思っていました。</p> <p>市民意識調査に「子ども・子育て」という項目がありますが、その回答で特に気になったことは、年齢別の結果です。資料1-1の5ページですが、30代の「子ども・子育て」の評価について、満足度が2.87と低い結果となっています。さらに7ページの、3年未満、3年から5年未満という、摂津市に住んでいらっしゃる期間が短い方の「子ども・子育て」の評価が低いという結果になっています。これらの結果は、摂津市に住んでいたのに出ていかれたという、1月20日にいただいた資料と、整合性があると感じます。若い世代が住んでいらっしゃる上から5番目までの地域の転出が特に多いです。そうすると若い世代で満足度が低いということが原因ではないのか、ではなぜ満足していただけないのかという視点で、いろいろな角度で見ると、住みやすさであったり、環境であったり、そのよ</p>

<p>榎谷会長</p>	<p>うなところがものすごく気になりました。</p> <p>実際に今、人口動態はどうなっているか、環境はどうなっているのかという、先ほど久副会長がおっしゃったように、事実に基づき、今の傾向を見て、優れているところ、劣っているところを真摯に捉えて、できていないところはどうか補填するのかということ、次の摂津市行政経営戦略に反映するというのをしっかりとやらなければならないと改めて感じました。</p>
<p>事務局 (有場副理事)</p>	<p>ありがとうございます。吉田委員のご指摘、ご意見について、統計結果からもお示しいただき、よくわかると感じましたが、事務局はいかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。協働のまちづくり推進委員会の資料については、私も拝見させていただいております。</p> <p>本日お示しはできていませんが、現在、人口の分析も行っているところでございます。ご指摘のとおり、子どもの転出、特に0歳から4歳が転出超過となっていることは、たしかに人口の分析結果からも見て取れます。平成27年に人口ビジョンにおける調査をしていますが、その際もそのような状況でした。現在は、数値的には若干、緩和されているところはあるものの、本市にはそのような傾向があります。</p> <p>子育て世代というと30代が中心になるかと思えます。その30代の満足度が低いという結果が出ていますので、たしかにご指摘のとおりそういう傾向があって、なんらかの対策が必要であると思えます。こういった分析につきましては、今後、分野計画の中にどう反映していくのか、各課と協議し、個別の分析を進めていきたいと考えているところでございます。</p>
<p>久副会長</p>	<p>十数年前になりますが、摂津市住宅マスタープランを私も一緒に作りました。その際、アンケート調査もしましたし、どうしたら良いかという施策提言もしましたが、それが全然効果を発揮していないのではないかと考えています。</p> <p>私も元摂津市民なので、何が起因しているのかということは概ね見えています。1つは住宅の規模、延べ床面積です。ここ数年で供給された分譲マンションが一番わかりやすいと思いますが、茨木市では、平均で80平米前後となっています。一方、摂津市では70平米前後ということで、10平米ほどの隔たりが出ています。乳幼児が大きくなって小学校へ入学しようとする少し大きな住宅がほしくなりますが、その受け皿としての住宅が摂津市には極めて少ないという現状になっています。結婚してすぐに賃貸マンションに住むということであると、摂津市にはかなり物件があります。しかし、少し子どもが大きくなり、分譲にかわる、あるいは賃貸でも少し大きめなところに移るとなった際に、受け皿としての住宅が極めて乏しいというのが摂津市の状況ではないかと考えています。</p> <p>子育て支援の充実だけでは不十分で、住宅供給がそうなっているというところも原因にあります。ではどうすれば良いかというと、不動産業者も摂津市における売れ筋というものを考えており、80平米前後を出しても、摂津市で</p>

	<p>はなかなか売れないというようなイメージになっているというところで、そこを変えていかない限り、不動産業者が少し大きな住宅を供給するということにならないわけです。</p> <p>そうすると、シティプロモーションのところが肝要になると思います。シティプロモーションで、摂津市が良いということをもっと発信できていれば、市のイメージが上がり、摂津市でも少し大きめのマンションが供給されるということになっていきます。その辺りの関連性も、市民意識調査やその他の調査結果から分析してほしいということが私からのお願いです。さらに、それはもうすでに摂津市住宅マスタープランにおいて実施しているので、そういうものも参考にさせていただき、どのような違いが出ているのかということも見てほしいと思います。</p> <p>摂津市住宅マスタープランを策定した際に、ちょうど南千里丘のマンション開発がされる時期であったので、その居住者向けにアンケートを取りました。その中で、私も元摂津市民なので正直に少し失礼な言い方で申し上げたのですが、このマンションをお求めになる際に何を我慢しましたかという項目を設け、摂津市であることを我慢したのかという選択肢を入れました。すると、それがなんと第2位という結果でした。摂津市民にはあまりなりたくなかったけれども、ちょうど良いマンションが出たから買いましたという意見が第2位になったということは、これは摂津市としては、もっと摂津市民としての誇りを持てるようなシティプロモーションをやっていかないと、おそらくこれからも同じような状況になるのではないかと思います。私自身も摂津市民だった際に、摂津市といえば何と問われた際に、誇りとして大きな声で言えるものがなかなか見いだせないというつらさがありました。</p> <p>このイメージを変えていかない限り、摂津市は魅力的にならないと思いましたので、ぜひとも次期・行政経営戦略においても重要な観点として考えてほしいと思います。</p>
榎谷会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>基本計画に具体的に落とし込んでいくということも進める必要があるかとは思いますが、基本構想として、まちとしての将来像、どういうまちにしていきたいかという構想に関わる部分で、今の久副会長のご指摘は特に大切なお話だったと思います。事務局はいかがでしょうか。</p>
事務局 (古賀副理事)	<p>次の次第において、ご説明させていただく予定でしたが、久副会長からご指摘のありましたシティプロモーション施策については、既存の事業を磨き上げ、より魅力のある事業として、いかに外部に強く発信していくのかということであり、それは例えば広報課や事務局が単独で取り組むものということではなく、全庁的に取り組むべきものであり、全施策に関わってくるものであるため、次期・行政経営戦略ではそれを踏まえた施策体系としたいと考えています。</p>

吉田委員	<p>久副会長のお話を聞き思い出したのですが、先ほど申し上げたとおり、乳幼児の転出が多い原因として、摂津市は教育レベルが低いというイメージが根付いています。私の周りでも鳥飼で育った方が子どもを育てていて、小学校に入学する前に吹田市にマンションを買って転出された方が何人もいらっしゃいます。なぜ転出するのか尋ねると、学校に行くなら教育レベルが高い方が良いとおっしゃっていました。</p> <p>たしかに住宅事情もあるのですが、教育事情の情報によって、子どもが転校するのはかわいそうだから、今のうちに引っ越そうということも理由の1つと考えると、では教育そのものをどうしたら良いのかというテーマも出てきます。</p> <p>1つのテーマをいろいろな方向から見ると、様々な角度で手を付けないといけないということを感じ、そのことを先ほど申し上げるのを忘れていました。すみません。</p>
事務局 (平井公室長)	<p>委員の皆様、いろいろご意見ありがとうございます。先ほど久副会長と吉田委員がおっしゃった指摘というのは、私も含めおそらく職員は、言い方が正しいかはわかりませんが、気付いている部分であり、課題ということは認識している部分ではございます。</p> <p>ただ、それをどのように解決していくかということが、やはりなかなか至っていないという現状もあると感じております。行政経営戦略の改定の時期でございますので、引き続き皆様のそういった貴重なご意見やご助言をいただきながら、基本構想を含め各施策において、しっかりとそういった視点を念頭に置きながら、どう展開していくかということは全庁的に議論していきたいと考えております。ありがとうございます。</p>
大矢委員	<p>小・中学生アンケートの回収率が68.1%で市民意識調査の2倍近くありますが、これはなぜでしょうか。</p>
事務局 (古賀副理事)	<p>学校運営の無理のない範囲でご協力いただきたいということを事前に校長会で説明させていただきました。学校によっては授業や朝礼の場面でやっていただいたこともあり、学校側の働き掛けが大きかったというところで、今回、回答率が高かったと考えております。</p>
大矢委員	<p>ありがとうございます。子どもの方が熱心なのかなと思ったのですが、そういうことですね。</p> <p>結果を見せていただくと、大人も子どもも人のつながりが市の財産であるということが共通していると感じました。先ほど久副会長がおっしゃったことですが、摂津市には自慢できるものがなく、だからこそ、人のつながりになってしまうのかなと思います。一方で、摂津市はこの規模ですから、人のつながりというものも大事で、本当に良い財産だと私も思います。</p> <p>小・中学生アンケートで、どんなまちになってほしいかという問いに対して、</p>

島内委員

公園や遊び場など娯楽の施設がほしいという回答がありますが、結局、子どもたちは人のつながりがあって、居場所がほしいと思っているのかなと感じました。それと、あとは規範を守るや防犯対策などもありますが、これは学校教育ではやはり規律を守ることが大切なので、外でもそうあってほしいという、学生ならではの視点かなと思いました。

公園があまりない、遊べる施設を増やしてほしい、公園でボールが使えない、バスケットゴールのある公園がない、サッカーができる公園が少ない、野球ができる場所が少ない、運動施設をもっと増やしてほしい。これは摂津市の子どもたちの体力調査にも直結しているのではないかなと思いました。

河川敷で楽器を吹いていたら通報される、子どもの遊び場に文句を言いに来る人がいる、などからは、本当に子どもたちは居場所を求めているということがよくわかりました。

大人もつながりが摂津市の良いところであり、つながりを持てる、そういうところがほしいということは共通しているなと感じました。ただ、AI で分類すると、そういった分析が薄まってしまうので、そこは生の声を確認しながら進めていくと良いのではないかなと思います。

資料2の14ページで、摂津市のまちで自慢できるもの、誇りに思うものということについて、魅力、特色のある名物、鳥飼なすが172件で断トツであり、主な意見で、鳥飼なすがおいしいこと、鳥飼なすが生産されていることとなっていますが、小学校の授業で栽培するといった地道な努力がこの結果に表れているのかなと思います。しかし、逆に言うと、これ1個しかないのかなと思いました。

鳥飼なす自体は良いのですが、では鳥飼なすを7月、8月に、市民全員が食べているのかと言われると、そんなことはないと思います。昨年、万博に出させていただき、鳥飼なすを使ったカレーを提供しました。摂津市民の方も結構来てくださりましたが、初めて食べましたという方もいらっしゃいました。

結局どれだけ食べているのか、どれだけ調理されているのか、いわゆるその後の展開、鳥飼なすのPRはしているものの、それをどう活用していくのかという戦略が全く感じられないというか、ほったらかしというか、その辺りが非常に気になっています。もっと戦略的に、どういう地域にどれだけ販売し、どれだけ広めるかという計画的なものを考えていただきたいと思います。

私は毎年、吹田市の旬菜山崎さんという料亭に行くのですが、そのお店には毎年1,000個ぐらいの鳥飼なすを買っていただいています。なぜ買ってくれるかという、浪速の伝統野菜の促進をする委員を社長がされていて、吹田市のクワイなど、できるだけ大阪の地域のものを使って料理を提供したいという思いの強い方であり、鳥飼なすも毎年たくさん買ってください、料理に使っていただいています。こんな素晴らしいものがあるのになぜ使わないのかと、吹田市の方が言っています。また、昨年はザ・リッツ・カールトン東京の料理長も、こんな素晴らしいものがあるならぜひ提供してほしいと言っていました。プロの料理人ほど、鳥飼なすの価値、ブランディングと言うか、素晴らしいということを感じていま

	<p>す。摂津市ももっと頑張ってやってほしいと、他市の方が言うてくださるぐらいなので、ぜひ市として本気でやっていただけたらと思います。</p> <p>あと、昨年と一昨年、摂津市と商工会でせつつキッズファクトリーをやらせていただきました。摂津市は企業がたくさんあるので、ものづくりの楽しさなどを子どもたちに体験してもらい、摂津市に定着してもらって、ゆくゆくは摂津市で働いてもらうなど、そういった長期的な展望でものづくりというものを考えていただけたらと思います。市長も、北摂きってのものづくりのまちだと、いつも挨拶でおっしゃってくださいますので、やっぱり長期的な戦略として、ものづくりのまちにしていくにはどうしたら良いのかをお考えいただきたいです。もちろん先ほどおっしゃっていた教育も大事だと思いますが、質を上げていくことも大事だと思います。</p> <p>昨年、オープンファクトリーで、輪ゴム銃を割り箸ではなく、鉄で作りました。調節も全てねじで行うので、男の子も女の子も皆さんすごく感動されていました。手触りもずっしりとくるのかもかもしれませんが、そうやって子供たちに体験してもらうことで、摂津の技術はすごいと感じてもらおうといった、そういった地道な努力が大事なのかなと思います。</p> <p>私もワールドカフェに参加させていただきました。今回の結果から、どう基本構想につなげていくのかということの後程ご説明いただけるかと思いますが、おそらく基本構想を考える際に、普段からの行政、市政運営の中でいろいろな意見が吸い上がってきているかと思います。今回はこのアンケート結果に基づいて基本構想を検討するというのですが、アンケートをやってみて、普段は重要だと思っていなかったけれども、市民はこういうことを思っていたのだなといった、新しい気付きを得られたといったことはありましたでしょうか。</p> <p>また、このアンケートに回答してくれた方やワールドカフェに来てくれた方に対し、どういった形で反映したかというお示しをする機会があるのでしょうか。その2点についてお伺いします。</p>
<p>辻委員</p>	<p>私もワールドカフェに参加させていただきました。今回の結果から、どう基本構想につなげていくのかということの後程ご説明いただけるかと思いますが、おそらく基本構想を考える際に、普段からの行政、市政運営の中でいろいろな意見が吸い上がってきているかと思います。今回はこのアンケート結果に基づいて基本構想を検討するというのですが、アンケートをやってみて、普段は重要だと思っていなかったけれども、市民はこういうことを思っていたのだなといった、新しい気付きを得られたといったことはありましたでしょうか。</p> <p>また、このアンケートに回答してくれた方やワールドカフェに来てくれた方に対し、どういった形で反映したかというお示しをする機会があるのでしょうか。その2点についてお伺いします。</p>
	<p>事務局 (有場副理事)</p> <p>ご意見ありがとうございます。まず、今回のアンケート調査等の結果からの気付きについては、先ほどからお話しさせていただいている、つながりの部分、小・中学生アンケートの結果を見ても、やはりそういったことをおっしゃっていただいた方が非常に多いと捉えています。過去からも「つながりのまち」ということで取り組んできた成果が、市民にも一定浸透し、認識していただいているのかなと感じております。</p> <p>あと、先ほどの久副会長からのご指摘の部分でもありますが、シティプロモーションについてです。先ほどから何度もお答えさせていただいている内容ですが、やっていることをしっかりと伝えていかないと、わかっていただけない。それが結果的に市に対して、ここに住んでいるという誇りが生まれてこないということがあると思います。</p> <p>ワールドカフェに来ていただいた方というのは、思いを持っていらっしゃった</p>

	<p>方が多いと思っていますので、いろいろなご意見をいただきましたが、やはり誇りは非常に重要になってくるものだと考えております。</p> <p>デジタル庁が Well-Being 調査というものをやっており、統計学的に信頼性に少し疑問符が付くものの、全国一律で同じ方法で実施しており、各市の比較ができるようなものとなっています。一人ひとりの主観的な項目と、実際に設備が整っているかどうかといった客観的な項目を分けてグラフにしています。例えば、先ほどの子育ての話ですが、本市は府下で言うと出生率が非常に高く、婚姻率も高いです。比較的若い人に選んでいただいています。しかし、しばらくすると、転出していくというような状況になっております。保育所も待機児童の解消が追い付かない部分もありますが、整備率も非常に高いです。決して子育てのサービスが他市に劣っているということはないと思いますが、やはりそこがうまく伝わっていないというのが現状です。</p> <p>先ほどの住宅のご指摘でも、内部ではたしかにそういった部分について、いろいろと検討はしていたところですが、やはりやっても、伝わらなければ、期待度や満足度が上がらないというような結果となり、主観データが客観データより下になってしまいます。だからこそ、誇りを醸成していかないと、いつまでたっても満足していただけないという状況になってしまうのではないかと考えています。</p> <p>コロナ禍の前ですが、健康・医療のまちづくりということで結構盛り上がっていた時期があり、この取組の成果かどうかはわかりませんが、Well-Being 調査では、健康の項目については客観データより主観データが上になっています。</p> <p>近隣市のデータを見させていただくと、ほとんどの分野・項目で主観データが客観データを上回っているような状況になっています。市民一人ひとりの誇りを醸成していくということが非常に大事だと考えているところです。</p> <p>ワールドカフェに参加された方にどのように還元していくのかということについては、報告書という形でまとめてお示しするという形になります。また、小・中学生アンケートの結果については、各学校にこういう回答が出ましたということをお返りする予定で、準備を進めております。</p> <p>ありがとうございます。今おっしゃったとおり、選び続けられるまちということが結構大事だと思っています。それには何が必要なのかということは、先ほどからあるとおり、誇り、このまちには何があるのかということをしつかりと発信することが1つの答えだと感じています。</p> <p>私自身も正直に申し上げますと、大阪市内で働いていて、どこに住んでいるのかと問われた際に、摂津市と言ってもあまりわかってくれないというか、大阪府内に住んでいる人ですらわかってくれなくて、吹田市と茨木市の間と答えると、理解してもらえたという経験があります。また、仕事で会計士をしていますが、摂津市で良い条件の会社があっても、どうしても便利なので、大阪市や他市が選ばれるといったことがあるので、やはりそういうところが大事なのかなと思いまし</p>
事務局 (古賀副理事)	
辻委員	

吉田委員

た。

先ほど、有場副理事がおっしゃったことに対してですが、やはりお互いを知ることが大事だと思います。状況を知って、お互いにどうしたいのか、それに対して市民はどう思っているのか、ではこう改善しましょう、といったキャッチボールが必要だと思います。

第1回の審議会でも申し上げたとおりで、協働を実現するためには、市民の役割、摂津市の一員として市の情報を積極的に収集するとともに、どんなまちにしたいのか、それを実現するためにはどうすれば良いのかを考え、行政の形成過程に参画しますというのが、市民の役割として書かれています。私たちはそうしようと思って、積極的にホームページを拝見し、いろいろなことを把握して、意見を上げてレポートを出したりなどしているのですが、以前も申し上げたとおりですが、リアクションがない。パブリックコメントをされる際に、意見を出してください、しかし個々の意見には対応しません、コメントしませんという、ただし書きがいつも付けられている。これは違うのではないかと、変えてほしいと申し上げました。ところが最近、2月4日締切の摂津市地域防災計画（案）のパブリックコメントにも、同じことが書かれていました。

私も一応、意見を出しましたが、書は言を尽くさず、言は意を尽くさずといって、書くことというのは、本人が考えていることを伝える手段としては一番拙い手段です。だから自分の真意がどこまで伝わるのかと不安に思いながらも、意見は出さないといけないと思って、私はパブリックコメントがあった際は全て意見を出しています。

ところが、コメントしませんと書いているから、どう受け止めていただいているのかということがわからない。コメントしませんではなくて、コメントを確認させていただくこともありますと書けば、やりたくなければやらなければ良いし、やりたいと思っても、しませんと書いているから担当者もできないわけです。このやり方では、何のためにパブリックコメントをするのかといつも思います。前回お願いしたように、必要に応じて中身の確認をしてもらわないと、意見の出しがいがないです。

パブリックコメントは、全ての住民が意見を出しているわけではありません。意識のある人が一生懸命見て、しかも手元がないから、何回も足を運び計画を見て答えています。そういう意思のある人の意見を大事にしていない、だから、誇りを持ってないのではないかと思います。確認させていただくこともありますと変えるだけで、コメントする側の意識は全然違うものになり、期待感もずいぶん違うものになると思います。そのことは前回も申し上げましたが、まだ変わっていません。

だから、お互いに誇りを持とうと思っていても、持たせてくれない。そのうちに、何をやっても仕方がないからやらなくなり、その人が嫌になって他市へ行くという可能性がないとは限らない。誇りを持って住むとなると、お互いが尊重するということが、協働とは何なのかということをお互いに確認しながら、根気よく

榎谷会長	<p>やっていく必要があります、一方通行にされているということが、私は一番問題だと思っています。</p> <p>摂津市行政経営戦略は、読めば読むほど素晴らしいものの、実行されていないのが問題だということを、以前から申し上げたとおりです。その精神を次の行政経営戦略にどう活かして、どう改善して意味のあるものにできるのかということをお私にこだわっていて、その一端として、パブリックコメント1つを取ってもそういうことだと思います。</p> <p>計画を作ることが目的ではなくて、手段としてどうするのかという原点に立ち返らないと、市民もなかなか誇りを持ってない、誇りを持てる市にはならないのではないかと思います。</p> <p>よく言われることですが、参画についてです。参加ではなく、参画するという事は、先ほど辻委員もおっしゃっていましたが、アクションを起こした際に、それに対する見返り、あるいは結果がどのように反映されているのかということが検証されていかないと、なかなか参画しているという意識を持たせるのは難しいだろうと思います。単に参加ではなく、意識的に、あるいは主体的にそこに意識を持っていくということは大切なことだと思います。いろいろと決まりもあるのですが、そこは意識いただければと思います。</p> <p>ただ、パブリックコメントに対して、意見を採用しなかったということや、採用しなかった理由については、ホームページ上でもお示しされています。個々の人には直接返していないという意味で、前回も事務局から回答があったと記憶しています。</p> <p>先ほど辻委員がおっしゃったように、ワールドカフェに参加した人はいろいろな意見を言い、希望も言ったわけで、できればそれに対しては何らかのリアクションがあるべきで、それは報告書として、基本構想としてまとめられていくことにはなるかとは思いますが、少し丁寧にしていただくことによって、そういう習慣が市民の間にも根付いていくということになるのではないかと思います。</p> <p>その他に何かご意見、ご質問はいかがでしょうか。</p>
米田委員	<p>2点ほど確認というか、質問があります。</p> <p>1点目は、私は市外の人間なので細かいところは見えていませんが、製造業の事業者がたくさんいらっしゃるって、大半が零細の町工場クラスだと思いますが、町工場の経営者の世代もかなり代わってきているのではないかと思います。40代、50代の若手経営者が増えているのではないかと思います。これは他の地域でもその傾向があって、いわゆる地域に対する愛情というものも、一律全員が持っているわけではないかもしれませんが、摂津に生まれ育って、摂津で仕事を興している、あるいは仕事を継いだという経営者の声というものは、もちろんこの市民意識調査の結果にも溶け込んでいるのですが、そこをピックアップして確認する必要があるのではないかと思います。</p> <p>私もいろいろな自治体を見てきましたが、例えば1つ具体的な例を挙げると、</p>

	<p>愛知県の長久手市で、職員の皆さんはご存じかと思いますが、子育て支援でとても有名になっているところです。単に子育て支援の政策を挙げて具体的な政策に展開しただけではなく、いわゆるコミュニティづくりをすごく重視されていて、一歩踏み込んで、市民参画型でどんどん回していったという自治体です。これも地元の経営者等の意見も入っているかと思いますが。そういう意味でも、郷土愛が強い経営者の意見は聞くべきであるということが意見になります。</p> <p>2点目は、つながりというところを重視されてきたということであれば、単にイメージ戦略に訴える、例えば一般的に大阪モノレールの摂津駅前よりも阪急摂津市駅のイメージが良いかと思いますが、それはもちろん大事であるものの、それだけではなく、いわゆるコミュニティづくりに訴えて、もっと市民がどうしていったら良いのだろうということと一緒に考えていただく活動をするのが良いのではないかと思います。おそらく市民参画型の委員会等ということは何らかされているかとは思いますが、つながりが大事と言うのであれば、もう一歩踏み込んだ取組が必要なのではないかと思います。その点はいかがでしょう。</p>
<p>事務局 (古賀副理事)</p>	<p>産業のまちということで、中小企業が多いということも本市の特徴ですので、そういったご意見を取り入れる必要性は認識しております。行政経営戦略において、各施策分野の中に産業振興というものもありますので、その計画において市内企業、また若手の起業家さんのご意見等も聴取しながら策定しています。アンケートも取っておられると思いますので、そのアンケートも確認しながら、また、産業振興課とも連携を図りながら、どういった形で行政経営戦略において産業の位置付けをしていくのかというのは、議論を深めていきたいと考えております。</p> <p>つながりに関しては、この行政経営戦略の改定と並行して、所管は別になりますが、自治振興課が協働のまちづくりの審議会を進めており、その中で協働の在り方を現在まさしく議論をしております。昨年3月に協働のまちづくり条例を制定して以降、それを形にしていくため、各関係課、市民の皆さんのご意見を聞きながら計画策定を進めているところであり、そこは両輪となって取り組んでいきますので、それも踏まえて、次の行政経営戦略には協働という視点もしっかり落とし込んでいきたいと考えております。</p>
<p>榎谷会長</p>	<p>次の次第に進めさせていただきます。次第2.次期・摂津市行政経営戦略の基本構想（骨子案）について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (古賀副理事)</p>	<p>資料4に基づき、説明。</p>
<p>榎谷会長</p>	<p>ご意見、ご質問はいかがでしょう。</p>
<p>柏原委員</p>	<p>ご説明ありがとうございました。1月26日に摂津市人間尊重のまちづくり審議会で、人権についての話し合いがありました。次期・行政経営戦略の施策体系に</p>

	<p>において具体的に人権や平和という施策が入っており、市はこれまでも人権尊重、人権保障を掲げていますので、7ページの基本構想、めざすまちの姿の素案にこれらの文言を入れ込んだら良いのではないかと感じましたので、意見として述べさせていただきます。</p>
榎谷会長	<p>ありがとうございます。時間の都合もありますので、事務局には最後にお答えいただくこととして、取り急ぎ、骨子案についてのご意見等お伺いしたいと思います。その他はいかがでしょうか。</p>
辻委員	<p>ご説明いただいた5つのめざすまちの姿に従ってそれぞれの現場でいろいろなことをされていくのかと思いますが、この言葉やキャッチフレーズと言いますか、行動する、計画する上で、キーワードとして現場になじんでいくのか、職員の頭の中に常にあって、行動規範や計画規範にきちんとなっていくのかということを見直していただきたいと考えます。</p> <p>今回この5つのめざすまちの姿が、どうしても抽象的なものになってしまうところはあるとは思いますが、これを見て、私はこういうことを計画した方が良い、こういうことを日々実践すれば良いということをイメージできるようにしていくのが良いかと思しますので、現在の7つのまちづくりの目標の反省も踏まえて、決めていただけたらと思います。</p> <p>あと、昨日資料を拝見した際は、シティプロモーションやDX、人材育成等が横断的なものであるので、何もタイトルが付いていなくて良いかなと思っていましたが、先ほどからの話を聞いていると、やはり暮らし続けてもらうこと、選び続けてもらうことというのは結構大事なことで、それがシティプロモーション、市として意欲的に選んでもらう、暮らし続けてもらうという意欲的なキーワードなどがあれば、職員の皆さんは動きやすいのかなと感じましたので、そのあたりも少しご検討いただきたいと思いました。これは意見というか提案ですので、よろしくお願いします。</p>
久副会長	<p>まず7ページに、かなり具体的な文言を1、2行で書かれていますが、これが現状でどれだけ実現しているのか、何が課題として残っているのかということの評価して、20年でその課題を埋め合わせて、ここに到達できますというようにしていただかないといけないと思います。そのためには評価をきちんとしてもらいたいというのが1点です。</p> <p>文言を作成する時から評価状況が見えていると、これからめざしていくことに対しての評価もでき、連動すると思います。20年後にいかにしっかりと実現していくかというところを測っていかないといけないと思いますので、そこを考えた際に、この言葉遣いで良いのかどうか、きちんと測れるようになっているのかというところを見極めながら、文言を修正していただきたいと思っています。</p> <p>先ほど柏原委員がおっしゃったお話を踏まえて改めて見ますと、かなり具体的なことが書いてあるものと非常に抽象的なものがあります。先ほどご指摘いただ</p>

いた4番はとても抽象的です。しかし、3番は、道路、水道、景観とかなり具体的なことが書いてあります。このレベル感も合わせ、もう少し精査していただければと思います。

また、評価が見えてくると、先ほどもありましたように、主観評価と客観評価がずれているかどうかというところも見えてきます。客観評価が高いにもかかわらず主観評価が低いということは、主観評価を上げていく戦略が必要だということになるので、そこをきちんと見極めるために評価できるようにしておいてほしいと思います。

あと、辻委員がおっしゃった話と関連しますが、10 ページの下の5つの施策に関する要素は、基本構想に挙げておかないといけないのではないかと思います。これは20年間、市あるいは市民として、まちづくり、まちの姿を実現するための基本的な姿勢のようなものであり、どういうやり方をしてそれを実現していくのかということが書かれているものが、協働から中期財政の5つの施策だと思いますので、基本姿勢なのか基本理念なのか名前は別途考えていただけたらと思いますが、基本構想の中できちんと書いてほしいと思います。

特に、吉田委員がお話しされた協働というのはとても重要で、いわゆる公共私役割をもう一度きちんとお互いが認識するということが、非常に重要だと思っています。新しい公共はもう使い古された言葉になっていますが、この新しい公共を市民もきちんと認識していただき、一緒に育てていくということが市役所側の姿勢だと思うので、基本構想にしっかりと書いていただきたいと思います。

ちなみに私が館長をさせていただいている茨木市のおにクルは、総合計画で位置付けられた共創を進めていくための拠点として現在運営していますが、例えば先ほどの価値観を尊重しながらという言葉は、そう簡単にはいきません。具体的な話になりますが、定期試験前になると高校生が全ての机と椅子を占有してしまい、そうすると他の人が使えなくなります。これは、先ほどのアンケートにもありましたが、一人ひとりの満足度を上げていくと、違う方向性を持っている方々とぶつかってしまいます。そのぶつかりをどう調整するのかということが重要で、それがうまくいかないと、おそらくみんなに不満が残ってしまうということになります。いかに調整するのかというところをきちんと見えた上で考えていくと実現に向かいますが、そこが抜けると、結局理想論で終わってしまうということがあります。

だからそういうことも含めて、綺麗事では済まないことがたくさん起こってくるわけですから、そこをどのようにしてみんなで乗り越えていくのかということを考えていかないといけないし、市民側もそれを行政任せにするのではなくて、自分たち同士でも自分と他の人との満足度のところでぶつかっていくトラブルを乗り越えてもらうということが、新しい公共をつくり上げていくということにおいて重要ですので、そういった意味でもしっかりと基本構想レベルで書いてほしいと思います。

吉田委員

基本構想の10ページで、将来都市像として、「みんなが育む つながりのまち

撰津」と書かれています。鳥飼まちづくりグランドデザインでも、地域のコミュニティが醸成されていってみんなが助け合うということが将来像として書かれています。つまり市民のつながりが大事であることは、みんなわかっています。

ところが現実を考えると、ご存じのとおり自治会の加入率はどんどん低下し、子ども会や老人会や、その他いろいろな今まで地域で支えていた団体、組織が維持できなくなり、一生懸命努力して続けるところもあれば、ギブアップして解散するところがはっきりとなり、どんどん解散の比率が高くなってきています。それをなんとかしないといけないということで、協働のまちづくり推進条例も作っていただいています。向こう20年を考えた際に、本当にその市民のつながりの現状を改善するためには何をしたら良いのかということがあります。

例えば自治振興課で何かやりましょと、単独の部門でやる問題ではなくて、先ほど申し上げたとおり、地域防災計画の中の防災地域の避難所運営なども含め、地域のつながりがないと円滑に、かつ長期化する場合に混乱が起きてしまいます。そうすると、普段からつながっていないといけないということで、防災計画についても地域のつながりを今後どうもっていくのかということ念頭に置いて役割分担を決めなければならないのに、拝見すると、今までこうだったから今後もこうするというような感じが受け取れます。

令和2年の地域防災計画の検討の際には、自治会を中心とした市民グループが避難所の運営を自主運営すると書いてありましたが、その文言が今回はなくなっています。自主防災組織となっていて、しかしご存じのとおり、自主防災組織になっているのは自治会の下部組織で同じなのです。だから自治会がなくなっているところは実質、防災組織もなくなっていますし、防犯もなくなっていく。つまり今まで頼っている組織がなくなった際の空白地をどうするのかという考え方が、残念ながら今回の計画には入っていません。この計画を作る際も含めて、今後はやはりそんな考えも入れ込んでいかなければいけないと思います。庁内でも、つながりがベースにないといけない計画についてはぜひ、今後はしっかりとイメージを持っていただきたいです。

地域防災計画には民生委員と自主防災組織の記載がありますが、民生委員の方々というのは、残念ながら定年で辞められる方の補充が追いつかず欠員状態になっていて、かつ、民生委員の方も高齢で、若い方の補充がなく、5年後、10年後には民生委員の機能というのはどうなるのだろうという想像を、どれだけされているのでしょうか。自主防災組織も同様です。地域と一緒にやらないといけないところは、将来どうなるかというイメージを持って、5年、10年先にも通用する計画作りをされていないのではないかと印象があります。一方、前回になく今回大きく掲げられているものが防災サポーターです。他は全て組織ですが、防災サポーターは組織ではありません。防災サポーターのリーダー、会長は誰ですかといっても、そんな会はないわけです。百何人かの個人が登録しているだけです。そんな方が、何かあった際に機動的に動けるのかというと動けないので、以前から私は組織化すればと言っていますが、その必要はありません、個々にお願しているから問題ないですという回答で、計画においても防災サポーターが

	<p>さも機能するような感じで書かれています。</p> <p>職員の方が駆け付けられなかった場合に、どんな形で市民グループが行うのかというイメージを、それぞれのところで共有していただき、計画作りをしていたかなければならないと思います。今回の行政経営戦略につながりということ前面に出されるのであれば、何もしなければ低下していくつながりをどうしていくのかということも庁内でも共有していただいて、いろいろなところから発信していただきたいと思います。</p> <p>一方、地域に話をもっていくと受け止める側は結局同じところになります。だから受け止める人を、どう人材をつくるのかということが、本当に20年先の摂津市の在り方において、基本中の基本になってくると思いますので、庁内の議論は本当にしっかりとお願いしたいです。</p>
川上委員	<p>10 ページで、みんなが育むと書いているのに、この図表を見ると市役所がやることだけというような印象を受けます。市民は何をするのか、どう参画するのかということについて、みんなが育むとしているところをもう少し伝わるような書き方であれば良いと思います。</p>
橋本委員	<p>資料を読ませていただいて、申し訳ないのですが、似たような言葉で、ぴんとくるところが少なかったという印象でした。つながりということを書かれていますが、先ほど吉田委員もおっしゃったように、本当につながりということだけを市民の方が感じているのかなと思います。私もPTAをやっていますが、どんどんやり手がなくなって、若い人の団体に対しての思いが消えていっていることをすごく感じています。</p> <p>また、これも先ほど吉田委員もおっしゃったことに関係しますが、防災サポーターについて、私も先日、防災サポーターの講習に行ってきました。残念ながら、講習を聴いただけで終わってしまい、本当に大丈夫なのかと感じました。今後、自分たちがどう集まって、防災サポーターとしてどう動いていくのかという具体的なことが一切わからず、講習は終わってしまいましたので、そこをもう少ししっかりと詰めないと、本当に何か起こった際に動けないとすごく感じました。今後になるとは思いますが、そういう具体的な部分を詰めきれてないところが課題だと思います。</p> <p>あと、報告ではありますが、先ほど米田委員がおっしゃった、40代、50代ぐらいの若い経営者たちに集ってもらい意見を聴くということについては、実際に行っています。つい先月、鳥飼東小の跡地活用の検討にあたりみんな意見を出し合うことを目的に、近く会社、地元の会社10社ほどが集まりました。自分たち1社だけではどう動くのかということにはなかなかできないので、だったら複数社で集まってみんなで考えようといった取組も進めていますので、知っていただければというご報告です。</p> <p>私ももう50代に入りますが、本当にこれからの摂津市を担っていきたくと思っています。40代、50代がどう参加したら良いのか、もっと若い人たちもどう</p>

大矢委員	<p>参加していくのか、目の前のことがいっぱいになかなか参加できないことはあるかとは思いますが、できるところは必ずあると思うので、そこをもう少し具体的ににつくっていったらいいなと思います。</p> <p>会議の前半でいろいろな意見が出て、シティプロモーションが必要だという話があり、摂津市の課題は市民が誇りを持ってないということだと皆さんおっしゃっていました。私も誇りを見いだせるようなまちにしてほしいと思いますので、このことは基本構想のどこかに落とし込む必要があると思いました。</p> <p>また、7ページのめざすまちの姿の2番で、教育委員会の管轄になるかと思いますが、「誰もが生涯にわたって学習や文化活動、スポーツ活動などに挑戦し、その知識や技能を生かして充実した毎日を過ごすことができるまちを目指します」とあります。もうすでに教育振興基本計画の中にも掲げられていますが、問題は公民館講座などをいろいろ行っても、参加する人が固定され、マンネリ化していることです。たくさん参加はして下さるのですが、70代の方が多く、30代、40代、50代の方は参加しない状況です。そこが課題で、基本構想に書いてもらっても、なかなかそれをどう解決できるのかという、やはりはっきり言って予算を付けていただくしかないと考えます。</p> <p>ハード面で摂津市は市民体育館もない。先ほどの小・中学生アンケートでも、サッカーや野球ができる場所がない。そこは両輪にさせていただかないと教育委員会としては非常に苦しい計画になるので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。</p> <p>鳥飼東小の跡地活用もうまくしていただきたいと思います。なかなか難しいとは思いますが、よろしく願います。</p>
島内委員	<p>今回の基本構想は20年間ということですが、20年先となると、社会は相当変わっていると思います。イノベーション的な何かがない限り、たぶん乗り越えられないと思うのですが、本当にこの内容で乗り越えられるのかというのが正直な感想で、みんなでつながっていこうということに対する危機感というか、切迫感が感じられないです。</p> <p>たしかに今後3年、5年は問題ないのかもしれませんが、20年先となると相当しんどい話だと思いますので、そこも具体的に考慮してもらえると、市民も本気になるのかなと思いました。</p>
米田委員	<p>皆さんがおっしゃっているように、やはりもう少し具体的に突っ込んだ案がほしいと思います。</p> <p>経営者の話というのはこだわるべきだと思っていて、単に自治体側だけで頑張るのではなく、いわゆる商工会、商工会議所の皆さんにも頑張ってもらいたいことが重要です。おそらく、日々の懸案事項がメインの打合せ事項かとは思いますが、彼らも将来的なことというのは考えていると思いますし、昼間の真面目な場だけではなく、夜の飲み会の席などでも出ていると思います。いわゆる地域のネットワーク上にいらっしゃるプレーヤーの意見を、もっと取り込むべきだろうと思</p>

<p>榎谷会長</p>	<p>います。自治体だけで頑張り過ぎないというスタンスの方が良いのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>進行役の立場で申し訳ないですが、少し意見を述べさせていただければと思います。</p> <p>8ページの図で、肝はみんなが育むということです。全ての市民、誰一人取り残さず、誰も排除されないで、市民がまちに参画し関わっていくという、つまりみんなが育むということがとても大切です。</p> <p>そういう意味で言いますと、実は矢印の横に書いていますが、「みんなが育む」の後の空白を取って、「みんなが育むつながりが」となっています。もちろんつながりも、みんなが育むのですが、みんなが育む摂津で、「つながりのまち 摂津」でもあります。つながりはたしかにそれぞれがみんなです育むのですが、「みんなが育むつながりが」となってしまうと、区切っている意味がなくなってしまうので、少し工夫をしていただけたらと思います。</p> <p>誰も排除されない、みんなが参画してまちをつくっていくというイメージを基本にしています。これは協働ということにもつながると思いますが、そこが将来都市像としてのスローガンの大きな意味なのではないかと思います。たびたびご意見にありました、5つの土台施策についても、将来都市像の中には出てこない要素なので、伝わるように将来姿をイメージできるような工夫が必要なのかなと思いました。</p> <p>その他ご意見等がなければ、事務局からコメント等があればお願いします。</p>
<p>事務局 (有場副理事)</p>	<p>まず、7ページの文言についてご指摘をいただきました。たしかに、どこまで個別具体的なことを文言として入れていくのか、レベル感を合わせるという話もありました。それについては引き続き、検討し修正してまいりたいと考えています。各課の計画についても、所管課との協議を進めてまいりますので、そこでもいろいろな意見が出てくるものと思っています。最終的に、文言としてどう落とし込むかということも、評価の部分も含めて時間をかけて修正していきたいと考えております。</p> <p>その他にもいろいろなお意見をいただきましたが、大きな1つのご意見としては、市の計画の進め方の部分かと思います。今回、協働と行政経営分野に記載していた施策を土台施策として位置付けることを検討していますが、これまでもシティプロモーション以外は行政経営方針に掲げ、推進の仕方、基本姿勢のようなことを記載しておりました。</p> <p>ただ、数々のご指摘をいただきましたが、実際のところどう進めていくのか、市としてどう進めていくのか、どう評価していくのかというところは、これまでの行政経営戦略の中では少し甘い部分もあったと考えております。</p> <p>5つの土台施策の部分に関しては、庁内でも幹部職員の会議体を形成しており、そこで進捗管理を進めていこうということで動いております。行政経営戦略は戦</p>

榎谷会長	<p>略でございますので、具体的にあるべき姿、方向性をどう進めていくのかということ、市内体制をしっかりと整えつつ、進めていきたいと考えています。</p> <p>また、市民参画のことについて、考え方などは基本構想内にしっかりと文言に落とし込み、次回の審議会でお示ししたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本日の次第は以上です。これをもちまして第2回摂津市行政経営戦略審議会を閉会します。ありがとうございました。</p>
------	---